

幕末明治の写真師列伝 第四回 下岡蓮杖 その三

嘉永7年(1854)1月11日、マシュー・カルブレイス・ペリー提督率いる米国東印度艦隊の黒船7船(帆船5隻汽船2隻)は、前年の約束通り日本に再び来航した。黒船7船の艦隊は江戸湾の入り口に現れ、16日には相州小柴沖に投錨した。浦賀奉行は即座に江戸湾内から退去して、浦賀港へ回航するように要求するが、ペリー艦隊はそれを拒否して、江戸湾内の測量を始めている。25日には、アメリカ独立記念日の祝砲や、故ワシントン大統領の誕生記念を祝って、祝砲(空砲)多数を打ち鳴らし、この轟音のため江戸市民はちょっとしたパニック状態となってしまった。もちろんこれはペリーによる脅しである。27日には、ペリー艦隊は江戸湾を北上して、その後、横浜沖に姿を現した。このため横浜も大騒ぎとなる。

そして翌28日に、2艘の小舟で横浜に上陸し、風景、人物などのダゲレオタイプの写真撮影をした男がいた。ペリー艦隊の従軍写真家エリファレット・ブラウン・ジュニア(Eliphalet Brown Jr. 1816-1886)である。このブラウンの撮影した写真や、一緒に従軍していた画家のウィリアム・ハイネの絵などを元にした挿絵が、遠征の公式記録『ペリー提督日本遠征記』(1856年)に収録掲載されている。

ブラウンの撮影した数百枚(400枚以上)のダゲレオタイプは、アメリカ政府が『ペリー提督日本遠征記』を出版するために数社へ預けられていたが、1856年にその内の一つで印刷所のデュバル社の火災により焼失、ほかの印刷会社に預けられたものも紛失したとされている。現在、確認されているものは、ペリー艦隊が函館に寄港した際に撮影された松前藩の役人を撮影した写真や、浦賀奉行所与力、通訳の役人を撮影した写真の6点のみである。このうちの以下の1から5の国内にある5点の写真は、平成18年度の国の新指定・重要文化財となっている。6点すべてエリファレット・ブラウン・ジュニア撮影で撮影年は1854年。

1. 銀板写真(松前勘解由と従者像)
大きさ:縦15.3cm×横12.0cm
所有者:北海道松前郡松前町(松前町郷土資料館保管)
2. 銀板写真(田中光儀像)
大きさ:縦11.8cm×横9.3cm
所有者:個人
3. 銀板写真(黒川嘉兵衛像)
大きさ:縦15.4cm×横12.0cm
所有者:個人
4. 銀板写真(遠藤又左衛門と従者像)
大きさ:縦15.4cm×横12.0cm
所有者:神奈川県横浜市(横浜美術館保管)
5. 銀板写真(石塚官蔵と従者像)
大きさ:縦15.4cm×横12.3cm
所有者:個人
6. 銀板写真(名村五八郎像)
大きさ:縦10.5cm×横8.0cm
所有者:ホノルル・ビショップ博物館蔵

また、この時のブラウンの撮影の様子は、武州石川郷の名主石川某により『亜墨理駕船渡来日記』として以下のように記録されている。

「安政元年二月十八日、今日異人寫眞鏡ト申ス持来人ノ姿或ハ山水草木等ヲ写シ取申候、此寫眞鏡ト申スハ蘭制ノ器物ニ而甚タ希代ノ仕掛也 一尺三四寸四方ノ箱前後二覗キ目鏡有之箱ノ中半分ヨリ上ニ合セ鏡ヲ仕掛ケ写サント思人ヲ三間斗向ニ立セ置ク其人ノ姿前ノ覗目鏡ヨリ箱ノ中へ入ル」

「十四日マロント申名ノ異人寫眞鏡ヲ携参リ・・・(中略)此器械ハ一尺四五寸四方ノ玉板ヲ入其板へ雲母ノ様ナル白キモノヲ塗付箱ヲ据付ノ台ニ載セ置写サントスル 人ヲ前ニ立セ後ノ方ノ目鏡ヨリ覗キ見ルナリ箱中ノ玉板へ移ルヲ渡トシ此板ヲ拔出シ油火ニテ能クアブリ玉板ニ塗附アル薬ヲヌグイ取ルトキハ鮮ニ其形様移リ何年経ルトモ消落ルコトナシト云」

その後、ブラウンは日本遠征から帰米すると、写真や版画の制作などをやめて、海軍に留まる。1864年には衛生伍長代理、地中海艦隊提督秘書などを歴任、1875年に海軍を退役し、1886年にニューヨークで亡くなっている。

おそらくこのブラウンの撮影の様子を、久之助も見たり、聴いたりしていたのであろうが、久之助がブラウンから直接、写真術を学ぶことはできなかった。

(森重和雄)